

計画の事前評価

I. 目標の妥当性	理由
①上位計画等との整合性	○ 弘前市地域防災計画で弘前運動公園は避難地及び防災拠点として位置づけられており、目標との整合性は確保されている。
②地域の課題への対応 (地域の課題と整備計画の目標の適合性)	○ 東日本大震災を踏まえて、弘前運動公園周辺の屋内避難所や防災倉庫の不足等、各種課題が発生したところであり、地域の課題に十分対応した計画となっているものである。
II. 整備計画の効果・効率性	
①整備計画の目標と定量的指標の整合性	○ 目標と定量的指数の数値と整合性が確保されている。
②定量的指標の明瞭性	○ 指標・数値目標は市民にとって分かりやすいものになっている。
③目標と事業内容の整合性	○ 大災害時の広域避難地、救援救護活動の前線基地、及び生活支援物資の集積・配送基地となる防災施設の整備を進め、更に広域的な防災拠点としての機能強化を図るという目標のもとで、事業内容を構築しているところであり、整備目標と事業内容との整合性は確保されている。
④事業の効果(要素事業の相乗効果等)の見込みの妥当性	○ 弘前運動公園が備えるべき防災機能の検討調査を行うことにより必要な防災機能を整理した上で、防災施設の整備を進めることにより、効果的な事業の推進や地域特性を生かした弘前運動公園の防災機能の強化が図られる等、要素事業間の相乗効果が十分見込まれる。また、市庁舎及び他の防災拠点との連携により、市全体の防災ネットワークの構築が期待され、災害時の更なる安全・安心の提供につなげられる。
III. 整備計画の実現可能性	
①円滑な事業執行の環境(事業熟度、住民等の合意形成を踏まえた事業実施の確実性)	○ 東日本大震災を経験し、弘前運動公園の防災拠点整備は行政・議会・住民間で合意が形成されており、整備内容については、具体的に検討を進めているところである。事業熟度が高く確実な事業実施が可能である。
②地元の機運(住民、民間等の活動・関連事業との連携等による事業効果発現の確実性)	○ 防災拠点整備に併せて、周辺道路の整備や避難誘導サイン等の他の関連事業と連携することで、地域住民や他市町村からの避難住民の円滑な誘導の確保や、復旧支援活動を行う民間事業者の迅速な活動開始が可能となる。また、地域住民や事業所からは、災害時の避難地としての役割だけでなく、地域の自主防災組織の活動の場(避難場所や防災学習等)としても期待されており、確実な事業効果が発現できる。